

## 21世紀COEと ミニクラスター事業の推進



副学長 小林 俊郎

現在日本の大学は改革の波にさらされている。我が国の構造改革は大学も又例外なしである。文科省の改革の3本柱は、法人化(平成16年度より)、再編・統合、そして21世紀COE(トップ30)の選定といわれている。

このうちの21世紀COEが紆余曲折の末、10月2日に公表された。今年度は生命科学、化学・材料科学、情報・電気・電子、人文科学、学際・複合・新領域の5分野の公募が行われ、163大学より464件の公募があり、50大学、113件が選定された。悲喜こもごもと言うところである。選ばれた研究は5年間(中間評価が入る)、世界最高水準の拠点に育てるため、年間1~5億円が配分される。

さて本学は3件を申請して、情報・電気・電子分野と学際・複合・新領域分野で2件が採択された。2件以上選定された大学は全国で18大学しかない。2,000人規模の小規模校としては異例と言ってもよいであろう。内容に比べ知名度が今ひとつと考えていた教官や学生も胸をはれる思いであろう。申請までの色々の苦勞が飛散したような気がする。中間審査や来年度行われる残りの5分野についても気を引き締めて取り組みたいものである。

このような競争型社会の到来は、当然にしてその反発も大きい。まして選にもれた大学等の言い分には十分に耳をかし、審査方法等がより洗練されたものになる様当局にはお願いしたい。本学でも選にもれた分野と採択された分野で紙一重の差しかなかったというのが実感であり、あくまでもひとつの指標に他ならないと認識しておくべきであろう。

同様に文科省は、産学官連携を促進して特定の地域、技術領域を我が国に選定し、新規事業を育成する目的で平成14年度より知的クラスター創成事業を開始し、10クラスターを選定した。本学も(株)サイエンス・クリエイティブと共同して「スーパーストレージ&センシングバレー構想」を提案したが、残念ながら不採択であった。しかしこのような創成事業のミ

ニ版としての「都市エリア産学官連携促進事業」に引き続いて応募し、幸いに採択された(毎年約1億円の予算で3年間)。「情報通信分野; ネットワーク融合型スマートセンシングシステムの開発」のテーマで豊橋エリアが全国19地域の1つに選ばれた。

これら本学の成果は、創設以来4半世紀が経過して醸成されたものと思う。諸先輩の先生方に感謝すると共に、一層の発展を期したいものである。

### 21世紀COEプログラム 研究教育拠点に選定された大学

注)所在地は本部などがある都道府県とした。複数の研究が選ばれた大学は、括弧内に数を示した。

●=公立大  
■=私立大  
無印=国立大

